

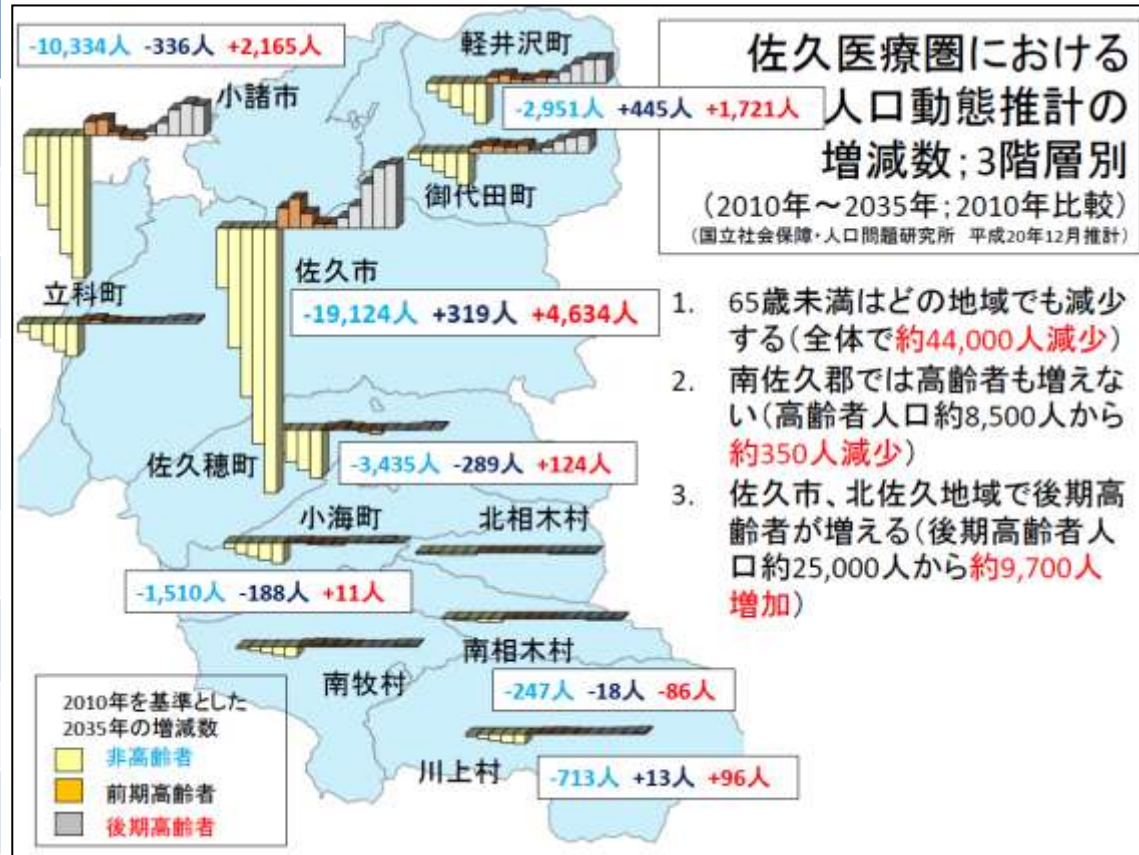
平成24年度在宅医療連携拠点事業
成果報告会
～取組み発表～



長野県厚生農業協同組合連合会
佐久総合病院

佐久医療圏の現状とこれから

市町村	総人口 H24.10 (人)	65歳以上 人口(人)	高齢化 率(%)
軽井沢町	19,399	5,172	26.7
御代田町	14,983	3,416	22.9
立科町	7,556	2,275	30.1
小諸市	43,601	11,865	27.2
佐久市	99,956	26,516	26.6
佐久穂町	11,762	3,769	32.0
小海町	5,038	1,819	36.1
北相木村	854	323	37.8
南相木村	1,075	413	38.4
南牧村	3,524	920	26.1
川上村	4,801	1,142	23.8



拠点事業により抽出された、 地域の在宅医療・介護の課題

1. 基幹病院側の在宅医療・介護に関する理解が不足している
2. 顔の見える多職種連携の効果的な方法が分かっていない

抽出された課題に対する 拠点事業としての活動計画

～基幹病院における医療と介護の連携推進プロジェクト～

1. 病院幹部の意識を変える

- － 医療・介護需要に関する資料作成
 - ✓ 長野県厚生連在宅ケア専門委員会(H24.10.1)
 - ✓ 佐久総合病院経営改革本部会議(H24.10.10)

2. 現場レベルでの意識を変える

- － 医療と介護の連携に関する懇談会(H24.10.30)
- － ケアマネジャーへのアンケート調査(H24.12)
- － 交流研修の実施(H24.11～H25.3)

3. 現場レベルに仕組みを創る

- － 病院内の退院調整委員会、退院支援連絡会での協議



拠点に配置された職員等が実際に行った 取組みの内容と得られた効果 ～基幹病院における医療と介護の連携推進プロジェクト～

1. 病院幹部の意識を変える

- 長野県厚生連は増加する介護需要への対応を明言
- 佐久総合病院の再構築計画に介護需要への対応を明言

2. 現場レベルでの意識を変える

- 基幹病院における医療と介護の連携に関する86項目の課題が抽出された
- 医療と介護のお互いの歩みにより理解を促す、話し合いの場の必要性の認識が高まった

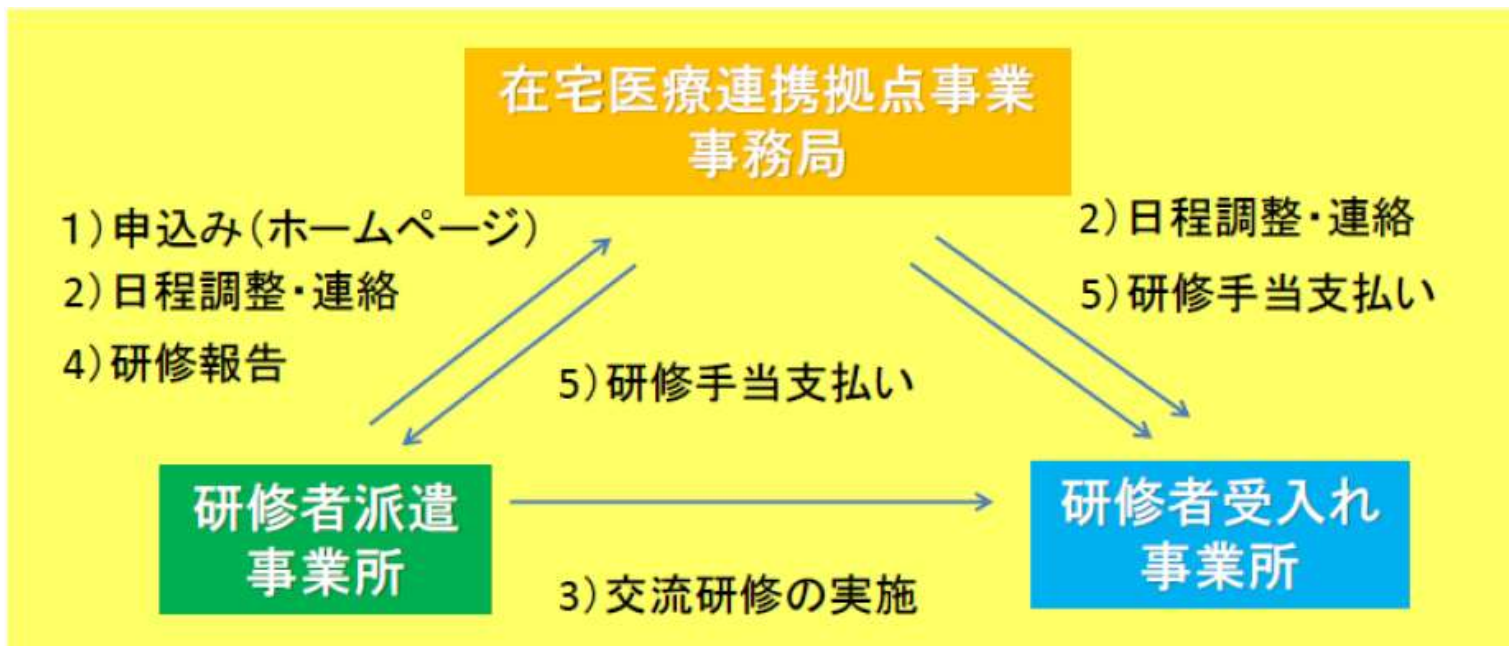
3. 現場レベルに仕組みを創る

- 入院時からの情報共有に取り組むために、入院時に介護保険証の提示に取り組む活動を地域で開始



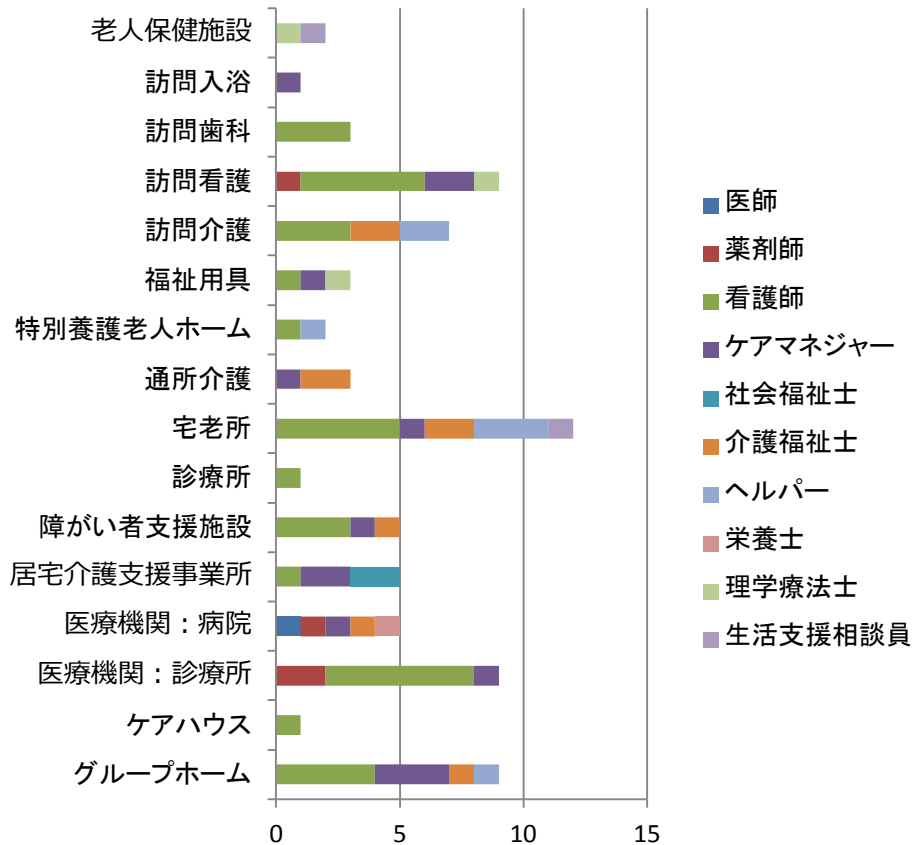
抽出された課題に対する 拠点事業としての活動計画 ～事業所間の交流研修プロジェクト～

- H24.7より佐久地域の55団体・事業所に説明、協力要請
- H24.11より佐久地域の90か所(390か所中)の医療・介護・障がい者施設事業所に協力を得て実施

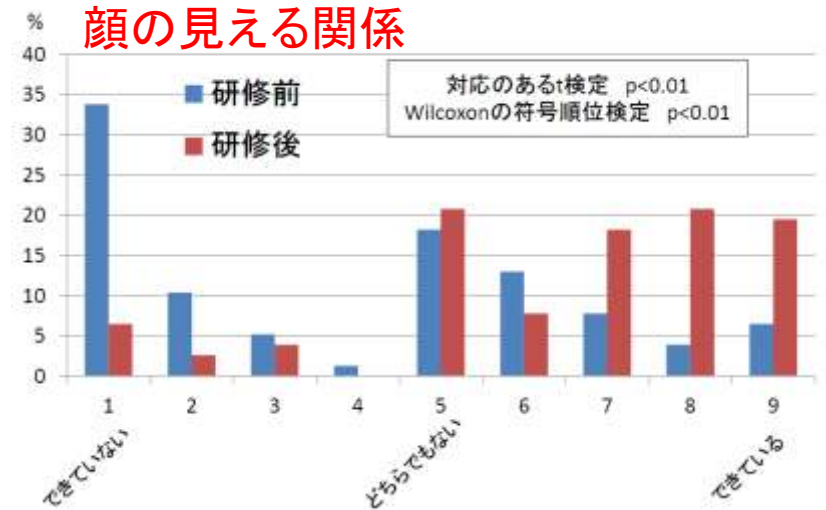


拠点に配置された職員等が実際に行った 取組みの内容と得られた効果 ～事業所間の交流研修プロジェクト～

H25.3.8 参加者77名



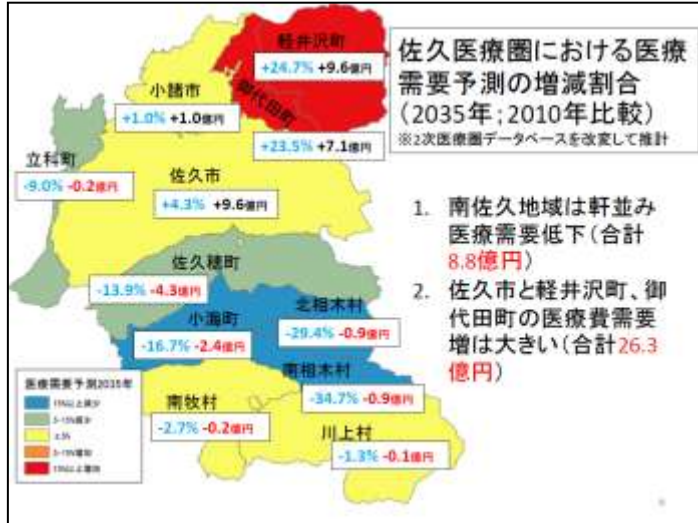
基幹病院スタッフが22.1%参加



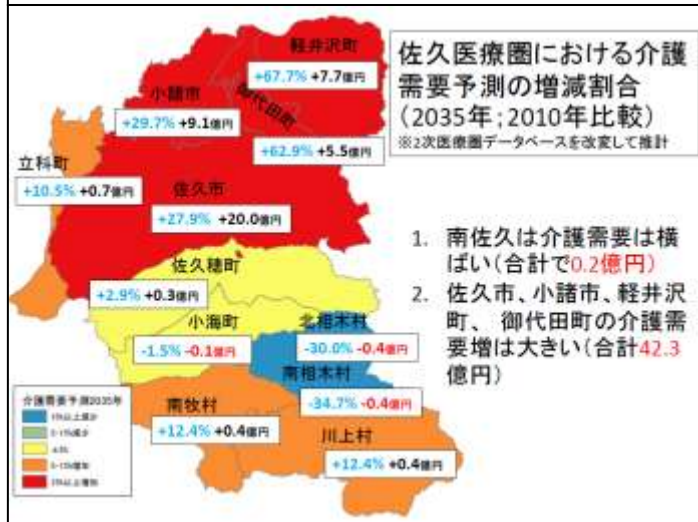
特徴的な取組み、先進的な取組み

地理情報システムを用いた視覚的な人口動態、医療・介護需要推計は、基幹病院幹部の意識変容に有用

顔の見える多職種連携構築に、事業所間の交流研修は非常に有効



1. 南佐久地域は軒並み医療需要低下(合計8.8億円)
2. 佐久市と軽井沢町、御代田町の医療費需要増は大きい(合計26.3億円)



1. 南佐久は介護需要は横ばい(合計で0.2億円)
2. 佐久市、小諸市、軽井沢町、御代田町の介護需要増は大きい(合計42.3億円)

平成24年度厚生労働省モデル事業 在宅医療連携拠点事業

顔の見える多職種連携構築のための 事業所間の交流研修プロジェクト 開始のお知らせ



問い合わせ先
在宅医療連携拠点事業事務局
担当: 武重・上原
TEL 82-3131 (内線324) Fax 82-7846
e-mail zaitaku@sakuhp.or.jp



うまくいかなかった点、 効果的な活動にするためのポイント

うまくいかなかった点

- 南佐久地域を含めた活動を計画したが、南佐久地域に関しては交流研修以外に取り組みが行えなかった

効果的な活動にするためのポイント

- 医師会、行政との協働があっではじめて地域での在宅医療推進の活動ができる
- できるだけ多くの団体や事業所が参加しやすいような枠組み、ALL SAKU の取り組みにすることが重要